



## 5 . 環境の概要

## 現地調査

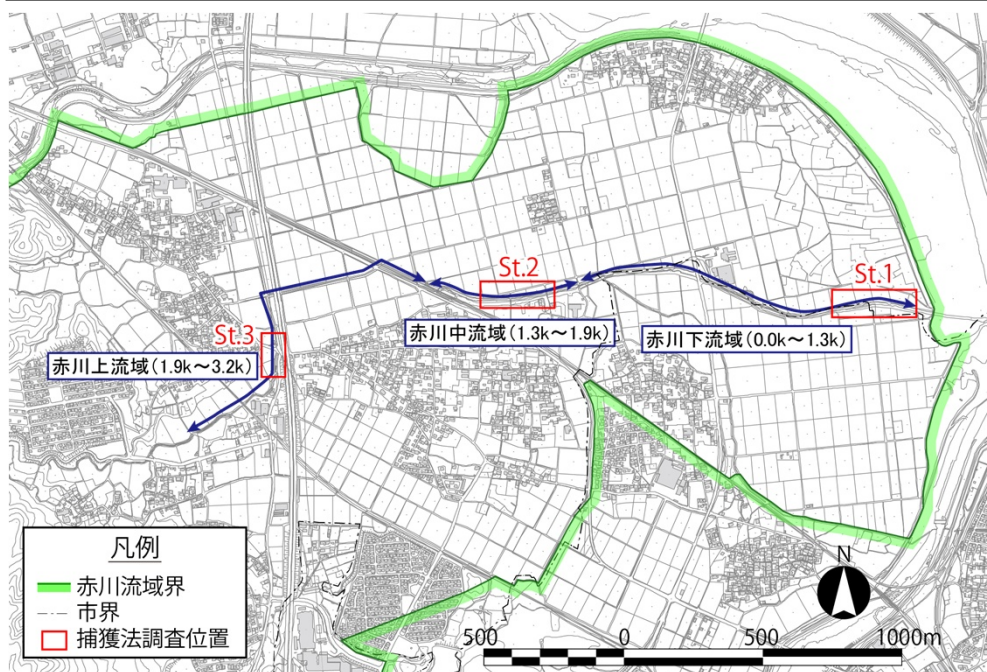
令和3年8月、9月に魚介類調査、植物調査、鳥類調査、昆虫類調査、両生・爬虫・哺乳類調査を実施した。  
(過去に赤川を対象とした動植物調査の文献はない)

### ・重要種の選定基準

- 「文化財保護法」(昭和25年,法律第214号)及び文化財保護条例
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年,法律第75号)
- 「レッドリスト2020」(令和2年,環境省)
- 「三重県レッドデータブック2015」(平成27年,三重県)

### ・外来種の選定基準

- 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年,法律第78号)
- 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成27年,環境省)



調査項目	調査内容	調査時期	調査範囲
魚介類	目視確認 捕獲法	令和3年8月31日	目視: 赤川全域 (県管理区域) 捕獲法: 左図に示す3地点
植物	目視確認	令和3年9月1日 ~ 9月2日	赤川全域 (県管理区域)
鳥類	任意観察法	令和3年8月30日 ~ 8月31日	赤川全域 (県管理区域)
昆虫類等、 両生・爬虫・ 哺乳類	任意観察法	令和3年8月30日 ~ 8月31日	赤川全域 (県管理区域)



# 河川環境（河川環境、植物）



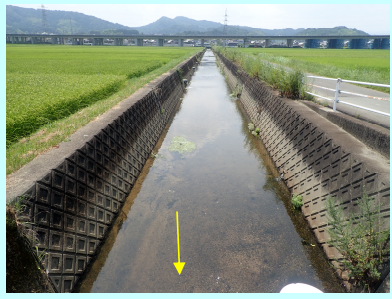
**河川環境:** 上流から河口部にかけて、全体的に流速は緩やか。  
落差工は、近鉄橋梁より下流に1箇所、伊勢自動車道より上流に3箇所設置されている。  
河床材料は、砂泥部分が多く、早瀬や石礫底の底質はみられない。

**植物調査:** 50科138種を確認。特定外来生物はオオフサモの1種を確認。  
下流域の斜面部は外来植物が優占。  
中流域は右岸にマダケ群落中心の樹林が、左岸はヨシ群落が繁茂。  
上流域はつる性植物が繁茂。旧初瀬街道より下流側は3面張りで流路内に植生は少ない。

特定外来生物: オオフサモ



上流域: 3面張りで植生少ない



上流域: クズ・ツルヨシ群落



中流域: 近鉄橋梁下流の  
落差工(破損している)



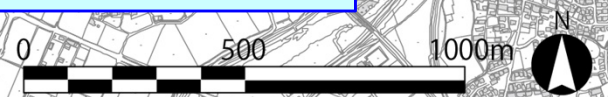
中流域: 右岸は樹林



下流域: 流速は緩く  
周囲は水田や畑



凡例  
① : 植生撮影地点  
■ : 落差工





# 河川環境（魚類、底生動物）



**魚類**：4目7科19種を確認。重要種はカワヒガイ、ドジョウ、ミナメダカの3種、特定外来生物はオオクチバスの1種を確認。

全体的に流れの緩やかな水域に生息する種が多い。上流域は遊泳魚のカワムツが、中流域～下流域は遊泳魚のオイカワ、ニゴイ属が優占していた。

**底生動物**：13目31科52種を確認。重要種はキイロサナエ、タガメなど4種、外来種はスクミリンゴガイ、アメリカザリガニの2種を確認。

全体的に緩やかな水際の植物帯等に生息する止水性～緩流性の種が多い。

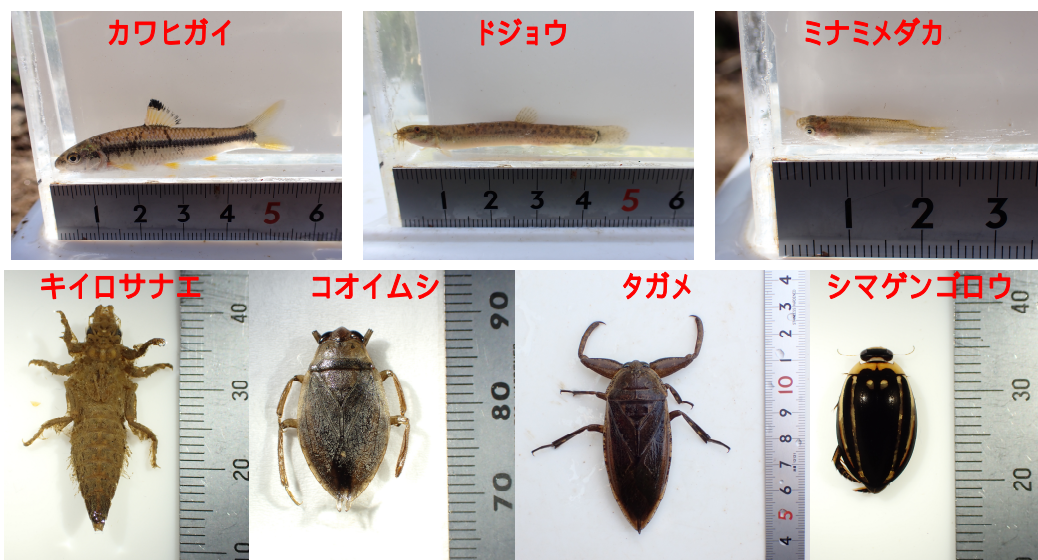


図 魚類、底生動物の捕獲調査位置図

表 魚類捕獲調査結果

No.	目	科	種名	St.1	St.2	St.3	
1	コイ	コイ	コイ(飼育型)	1	2	7	
2			フナ属		1	1	
3			カネヒラ	1			
4			オイカワ	17	25		
5			カワムツ			45	
6			ヌマムツ			1	
7			カワヒガイ		1		
8			タモロコ	1	3	1	
9			カマツカ	2	1		
10			ニゴイ属	18	22		
11			スゴモロコ属		8		
12		ドジョウ	1				
13		ニシシマドジョウ	1	1			
14	タウナギ	タウナギ	タウナギ(本土産)	1	1		
15	ダツ	メダカ	ミナメダカ		1		
16	スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス	3	4	5	
17			ハゼ	トウヨシノボリルイ		5	
18				ウキゴリ		4	
19		タイワンドジョウ	カムルチー	1			
	4目	7科	19種	11種	14種	6種	

オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。



**鳥類**:7目18科22種を確認。重要種は**チュウサギ**、**ケリ**の2種を確認。  
全体的にスズメ等、人家付近でも一般的に見られる種、ヒバリ等、草地・耕作地に生息する種が確認された。

中流域～下流域では水辺に生息するアオサギ、カワセミ、セグロセキレイを確認。  
中流域では樹林環境に生息するヒヨドリ、メジロ、キジバトを確認。

**昆虫類**:8目57科123種を確認。重要種は**ギンイチモンジセセリ**、**ヤマトアシナガバチ**の2種を確認。

全体的にバッタ類、カメムシ類、チョウ類等、明るく開けた草地環境に生息する種が多い。  
浅い止水域に生息する小型のゲンゴロウ類やガムシ類も確認された。

## 鳥類

チュウサギ



ケリ



## 昆虫類

ギンイチモンジセセリ



ヤマトアシナガバチ



重要種写真



# 河川環境（両生類、爬虫類、哺乳類）



**両生類**: 4種を確認。重要種はトノサマガエル<sup>(重要種)</sup>の1種、特定外来生物はウシガエル<sup>(特定外来生物)</sup>の1種を確認。トノサマガエルは近隣の水田を繁殖場所としており、河川区域は生活圏の一部と考えられる。ウシガエルは全域で確認された。

**爬虫類**: 3種を確認。外来種はミシシippアカミミガメの1種を確認(なお、確認は1例)。

**哺乳類**: 5種を確認。特定外来生物はアライグマ<sup>(特定外来生物)</sup>の1種を確認。確認された種は河川を餌場、休息場、移動経路として利用していると考えられる。アライグマの足跡は中流域で確認。

## 両生類



ウシガエル(特定外来生物)



## 爬虫類



ミシシippアカミミガメ(外来種)

## 哺乳類



アライグマ(特定外来生物)

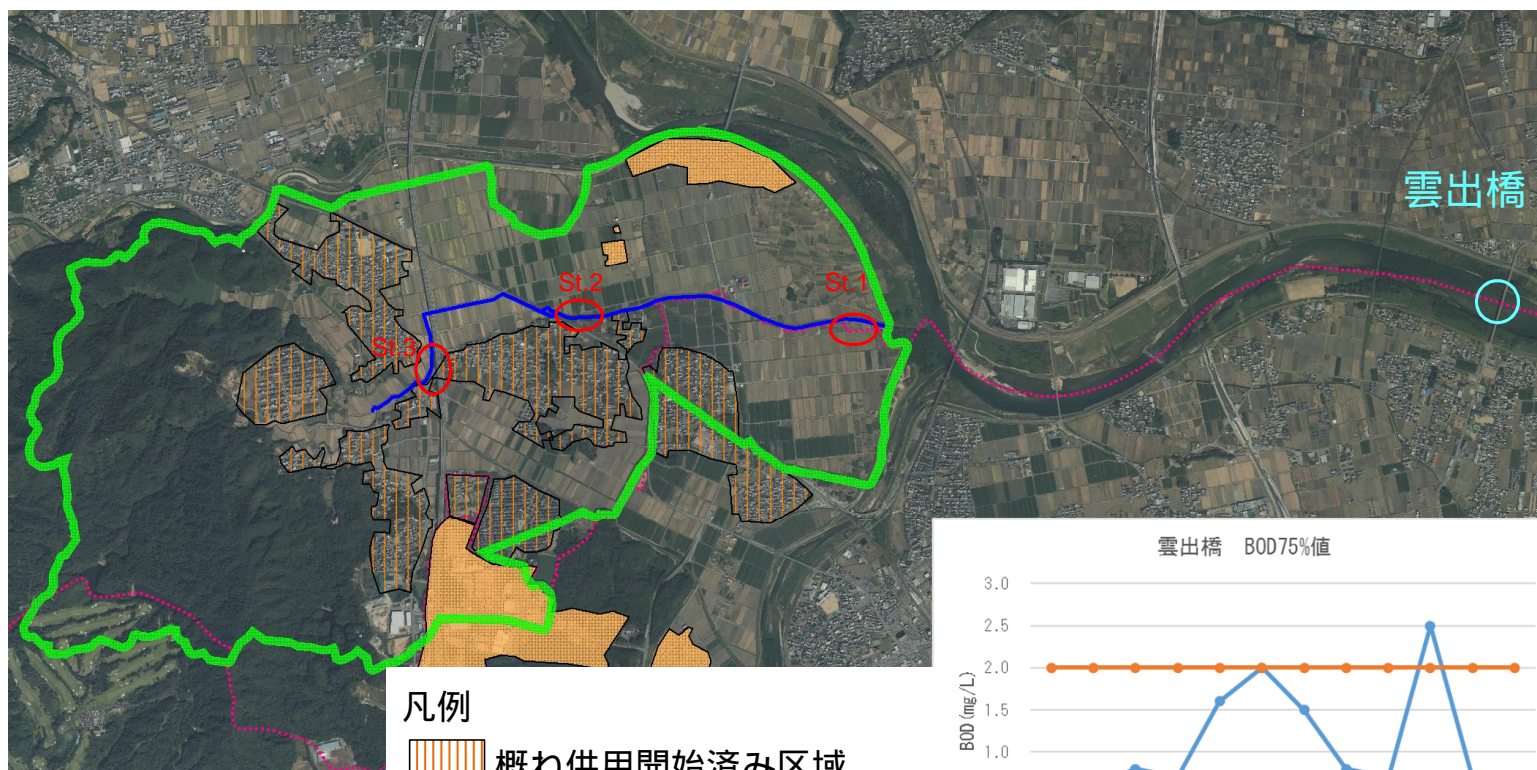




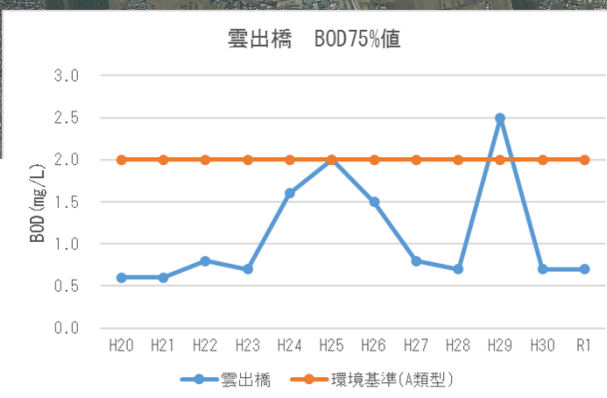
赤川流域での定期的な水質調査は行われていない。  
 雲出川の環境基準点である雲出橋地点は、概ね環境基準(A類型)を満足している。  
 赤川流域の汚水排水は、中勢沿岸流域下水道の松阪処理区・雲出川左岸処理区に排水される計画である。

現地調査で確認された水生生物からの評価(\*)によれば、上流部の水質は「良好」であるが、中下流部は、「良好とはいえない」という評価であった。

(\*) 「水生生物による水質評価法マニュアル 日本版平均スコア法」(平成29年3月、環境省)



- 凡例
- 概ね供用開始済み区域
  - 下水道計画区域(未整備)
  - 生物調査箇所



水生生物による水質評価法による各調査地点の評価

調査地点	平均スコア	河川水質の良好性
St.1(下流域)	4.6	良好とはいえない
St.2(中流域)	4.9	良好とはいえない
St.3(上流域)	7.2	良好

平均スコアの範囲	河川水質の良好性
7.5以上	とても良好
6.0以上7.5未満	良好
5.0以上6.0未満	やや良好
5.0未満	良好とはいえない





## 6 . 今後の進め方

